

# 力を付けた喜びが実感できる教科担任制の推進

当別町立とうべつ学園 学級数 25 (校長 吉村 公孝)

## 実践の概要

義務教育学校の強みを生かし、第3～6学年の理科、第5・6学年の図画工作、体育、第5学年の家庭、第6学年の外国語及び第5・6学年の音楽の授業を後期課程の教員による教科担任制で行うことにより、質の高い授業実践に取り組むとともに働き方改革を進めている。

## 1 実践の目的

授業の質の向上 多面的な児童理解 前期課程及び後期課程の円滑な接続 教師の負担軽減

## 2 実践内容

### (1) 実施計画

1学級における週時数をもとに、計画的に教科担任制を実施している。毎週、後期課程の時間割担当者が前期課程の専科授業の時間割を調整している。

	理科	音楽	図工	体育	家庭	英語
第5学年	3	0.8	1.4	2.8	1.7	(2)
第6学年	3	2.8	1.4	2.8	1.6	2

【1学級における週時数】



【後期課程教員による体育指導】

### (2) 取組の具体

理科及び体育においては、「義務教育9年間を見通した指導体制への支援(学園制)」の加配により、配置した教員が実施している。その他の教科は、後期課程の教員が授業を行うとともに、前期課程の教員が数学等のTT指導に入るなど、指導体制を工夫し、教師の負担軽減につなげている。

指導においては、「1実践の目的」における 授業の質の向上 多面的な児童理解 を特に重視し、授業づくりを行っている。後期課程の教員が前期課程での指導を行うことで、対話を重視し、ICTを活用した授業づくりや学習ルールの共通化が進み、前期課程と後期課程の円滑な接続につなげている。放課後には、教職員間で児童生徒の様子を活発に交流しており、学園の教職員全体で児童生徒理解を進めている。

8理	8_1理	8_2理	
5～9家技			7_2家
8英 9英			8_2英
7数 8数	M92数	M91数	8_1数
7数 9数	9_2数	9_1数	
5～9音	8_2音	7_2音	M81数
8社 9社	9_1社	9_2社	
7理 9理			9_2理

【時間割調整表】

### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

令和5年度の間中学校評価の「能力に応じた指導課程・方法の工夫など、個に応じたきめ細かな学習指導の充実(3年生からの一部教科担任制)」の項目において、97.8%の教職員が「よい」、「概ねよい」と評価している。(昨年度:中間88.4% 年度末92.7%)

また、児童生徒対象の授業アンケートの「教科担任制を含め意欲的に学んでいる」の項目において、96.5%の児童生徒が「よい」、「概ねよい」と評価している。(昨年度:86.9%)

効果的にICTを活用し、対話を重視した授業については、本校の研究と関連させ、取組の充実を図っている。

今後は、9年間を見通した授業観の統一に向けて、協議と実践の積み重ねが必要である。

### (4) 改善後の取組

「新しいかたちの学びの授業力向上推進事業」での指導を受け、教科担任が前期課程の教員にICTを活用した実践を見せるなど、教科担任制による指導の深化を図っている。



【児童生徒理解に向け、似顔絵を掲示】

## 3 実践のポイント

- 効果的な教科担任制の構築に向けて、「力を付けた喜びが実感できる指導」という目標を全教職員で共有したこと
- 教科担任制を進めるとともに、学園全体で対話を重視し、ICTを活用した授業づくりを進めたこと

# 理科専科加配を活用した教科担任制の実践

伊達市立伊達小学校 学級数 21 (校長 花田 啓光)

## 実践の概要

本校は、北海道教育委員会の「学校力向上に関する総合実践事業」の中核校として、理科の専科教員が配置されている。専科教員は、本校では第5、6学年、伊達市立東小学校では第6学年の指導を行い、授業改善を推進するとともに、専門性を生かした質の高い授業の提供を目指して取り組んでいる。

## 1 実践の目的

専科教員が各種データの結果を分析し、課題を明確にした授業を行うとともに、1人1台端末を効果的に活用した授業改善を通して、学力下位層への支援の充実を図る。

## 2 実践内容

### (1) 実施計画

昨年度の取組結果を基に、今年度の到達目標(数値目標)を「伊達市学力テスト(12月実施)において該当学年の平均正答率を全国平均以上にする」、「単元テストにおける正答率60%以下児童をゼロにする」と設定し、本務校、兼務校の理科の授業改善を図った。

### (2) 取組の具体

- ・児童が既習事項やこれまでの経験を生かして、学習課題の解決に向けて思考し、判断できるよう、実験や観察の時間を十分に確保し、体験的な学習を通じて知識・技能を高める活動を行った。
- ・児童が既習した知識や技能を関連付けたり、比較して考えたりすることができるよう、1人1台端末を活用しながら友達と協力して考えたり、考えを説明したりする活動を行った。
- ・理科に関する教材・教具の選定、時数管理、評価などを専科教員が中心となって行い、年間指導計画に基づき、学年の系統性を踏まえた指導の充実を図った。
- ・専科教員が初任段階の教員の指導力向上に向けた師範授業を行ったり、「理科の授業の進め方」等の研修を進めたりすることで、効果的な指導の実践につながった。
- ・児童の意欲を高める指導に結び付けるために、学級担任との情報共有を心掛けて学級経営方針を踏まえた授業づくりに取り組んだ。



【ICTを活用した実験の様子】



【ICTで考えをまとめる様子】

### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- ・ICT機器を効果的に活用した活動を行ったことにより、1学期末の児童アンケートで「先生は、画像や動画、道具などを用いて、分かりやすい学習になるよう工夫している」の設問に肯定的に回答した児童が93%、「授業は分かりやすく、楽しい」の設問に肯定的に回答した児童が86%であった。
- ・専科教員が伊達市学力テストの結果を分析し、課題を明確にした授業を行うことにより、「ほっかいどうチャレンジテスト」の全道の平均正答率を上回るなど、授業改善の成果が現れた。
- ・専科教員が単元テストの結果を分析し、課題を明確にした授業を行うことにより、昨年度よりも学力下位層が減少した単元があり、授業改善の成果が現れた。

	前年度問題	1学期末問題
第5学年	-0.1	+0.7
第6学年	+0.8	+0.6

【R5ほっかいどうチャレンジテスト結果】

### (4) 改善後の取組

- ・昨年度より学力下位層の割合を減少できなかった単元があるため、学習の知識・技能を定着させるために1人1台端末等を活用しながら、課題に応じた復習に取り組んでいる。
- ・単元テスト等の結果を基に重点単元を洗い出し、授業改善を通して学力下位層児童の学力底上げを図っている。

## 3 実践のポイント

- ・学力下位層における学力の底上げを図るため、専科教員が各種データの結果を分析し、課題を明確にした授業を行ったこと
- ・習得した知識・技能を、実験などの体験的な学習と関連付けて活用させるため、1人1台端末を活用した指導を行ったこと

# 外国語専科教員の専門性を生かした指導の実践

乙部町立乙部小学校 学級数 10 (校長 笠松 靖史)

## 実践の概要

本校では、令和3年度より配置された中学校での指導経験がある外国語専科教員を中心に、外国語の授業改善を進めている。外国語専科教員は、町内のもう1校の小学校である明和小学校も兼務しており、義務教育段階7年間の系統性を意識して指導することが可能となり、円滑に中学校英語への接続が行われている。

### 1 実践の目的

- (1) 専科教員の専門的かつ効果的な指導により、外国語等の授業改善を計画的に進める。
- (2) 専科教員とALTの連携により、活発なコミュニケーション活動を取り入れたり、異文化理解を深めたりする授業実践を通じ、児童の興味・関心の向上を目指す。
- (3) 中学校との連携を深め、授業交流や情報交流等を行い、小・中学校の円滑な接続を図る。
- (4) 専科教員が単独で授業を行うことにより、高学年等の学級担任の業務負担軽減を図る。

### 2 実践内容

#### (1) 実施計画

CAN-DOリストを効果的に活用した授業改善

ALTを活用した「読むこと」に関する資質・能力の定着

外国語教育における思考力、判断力、表現力等の育成

ICTの効果的な活用

#### (2) 取組の具体

1 単位時間ごとの授業における振り返りシートから、単元 (Unit = 8 単位時間) ごとに明確な目標を設定する振り返りシートに変更し、単元の見通しをもたせる活動を重視する。

全ての外国語等の授業は専科教員とALTによるチーム・ティーチングで実施する。ALTとの協働で、英語を読めるようになるための音声言語に係る指導の充実を図る。

コミュニケーションを行う目的や場面、状況を理解する指導の充実を図る。

外国語や文字、表現活動等に苦手さを感じている児童が伝えたい内容を表現したり、イラスト等を描く等の時間を削除し発表に集中したりできるよう、ICTを効果的に活用する。

#### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

1 単位時間の目標に加え、単元のゴールを可視化することで、児童に見通しをもたせる。

第5学年は「アルファベットの読み方」、第6学年は「フォニックスによる音声ルール」の習得に焦点を当て、児童の思考がアクティブになる指導を継続する。

同学年の人数が少ないなどの小規模校の課題を踏まえ、第5・6学年の異学年における合同外国語学習等を実施する。

1人1台端末で授業支援ソフト等を利用し、話すことに集中できる時間を保障する。

#### (4) 改善後の取組

いつまでどのような力を身に付ければよいのかを理解できるように提示したことにより、児童が意欲的に学習活動に取り組むことができるようになった。

外国語を読む力が向上したことが、児童にとって学びの実感や自信につながりつつある。

意図的に外国語でのコミュニケーションが必要な場面を設定し、経験を重ねたことで、児童が相手の立場を考えて、伝える内容等を考えられるようになった。

ICTの活用は、資料準備にかかる時間の短縮につながり、話すことに集中できる時間が保障された。

また、気に入った画像等を用いながらの活動は、表現が苦手な児童が意欲を持続し取り組むことができた。

### 3 実践のポイント

- ・専門性に基づいた指導により、児童が学習の目的や場面を確実につかめるようにし、学習意欲の高まりやコミュニケーション能力の向上などにつなげたこと
- ・外国語専科とALTが協力してデモンストレーション等を手本として示すことで、英語を使って自分の興味のあるものを伝えようと粘り強く、相手意識をもってスピーチやプレゼンテーション等に取り組む態度の育成を図ったこと



【ALT とのコミュニケーション活動】

# 専門性を生かした小学校教科担任制による国語科の指導

愛別町立愛別小学校 学級数10 (校長 長谷 一哉)

## 実践の概要

今年度、国語科の専科加配教員が配置され、第3学年以上の国語科で教科担任制を導入したことから、専門性を生かした指導の充実や複数教員による多角的な視点からの児童理解の促進、学級担任の授業準備の効率化を進めるなど、学校改善を図った。

## 1 実践の目的

専科教員による指導の効果として、次の2点をねらいとしている。

- (1) 専門性を生かした指導の充実
- (2) 学級担任の任意時間の創出や授業準備の効率化



【専科教員による授業の様子】

## 2 実践内容

### (1) 実施計画

今年度が初年度であり、第3学年から第6学年の国語科における専科指導を行うほか、専科教員を中心に学校の実態に応じた取組を行って成果と課題を明らかにし、持続可能な取組へと発展させることを目指す。

### (2) 取組の具体

#### 専門性を生かした指導の充実

専科教員は、国語科の授業に専念することができるため、教材研究を充実させるとともに、指導事項の系統を踏まえた指導のみならず、全国学力・学習状況調査等の結果の分析に基づく指導を各学年で確実に実施することが可能となる。

また、専科教員が、授業中の児童の様子を日常的に学級担任と情報共有するだけでなく、学期ごとに国語科の学習評価を文章で作成することにより、学級担任が通知表の所見欄への記載内容の参考としたり、保護者懇談における話題提示に活用したりするなど、専科教員による指導が学校全体の教育活動の充実につながっている。

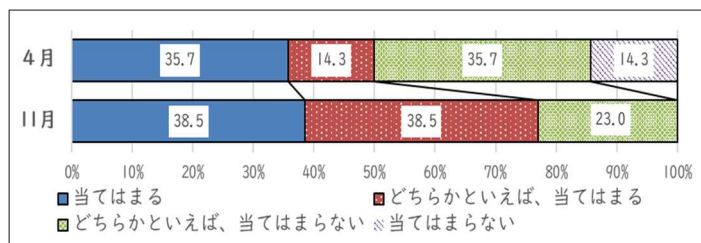
#### 学級担任の任意時間の創出や授業準備の効率化

学級担任が担当する授業時間数が減少したことにより、学級担任の教材研究の充実や時間外勤務の縮減につながっている。また、専科教員は国語科の指導のみを行っているため、共通のフォーマットで作成したワークシートを各学年の授業で活用するなど、授業準備の効率化に寄与している。

### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

専科教員の専門性を生かした指導を充実させたことにより、児童を対象としたアンケートにおける「国語の勉強は好きですか」の設問への肯定的回答が4月当初と比べ増加するなど、児童の学習に対する意欲の向上につながったと考えられる。

また、「第2回ほっかいどうチャレンジテスト」の国語の結果について、第5学年で+0.2ポイント、第6学年で+1.9ポイント全道平均を上回るなど、専科教員による指導が、児童の学力向上につながっていると考えられる。



【児童対象アンケート「国語の勉強は好きですか」】

### (4) 改善後の取組

専科教員を窓口として、町内幼児センターや中学校との連携を図り、系統的な指導の更なる充実を図る。町内の人材を活用し、町民と学校が連携した教育活動を計画するなど、町ぐるみで言葉のつかい手としての学びに向かう人間性の涵養に努める。

## 3 実践のポイント

専科教員が国語科の指導に専念し、専門性の発揮及び向上による質の高い教科指導を充実させたこと

# 理科専科教員を活用した学力向上と効果的な業務推進の取組

芽室町立芽室西小学校 学級数 18 (校長 阿部 立)

## 実践の概要

本校は、令和2年度から理科専科教員が配置されており、第3～6学年の8学級の指導を行っている。小学校4年間の学習内容の系統性を明確にし、理科専科教員による専門性の高い一貫した理科指導や学校全体でのICTを効果的に活用した授業改善の在り方を発信するなど、学力向上の取組を推進している。

### 1 実践の目的

理科授業の質的向上を図るとともに、小・中学校間の円滑な接続や専科教員と連携した学級担任の効率的な業務推進等、教師の働き方改革も含めた一体的な取組を進める。

### 2 実践内容

#### (1) 実施計画

理科の授業におけるICT機器、学習支援アプリ、学習eポータルの効果的な活用  
教科書やノート・タブレットの使い方、実験観察の取組方法等、小学校4年間を見通した理科授業の推進  
授業準備の効率化、時間外勤務の縮減等、学級担任の効率的な業務推進

#### (2) 取組の具体

ICT機器、学習支援アプリ、学習eポータルの効果的な活用

学習支援アプリの共有機能を活用して、一つのクラスだけでなく、他のクラスの実験結果も参考にして考察を行い、より妥当な考えを導き出せるよう取り組んだ。また、クラウドを活用して考えの共有やプレゼンテーション資料の共同作成を行うなど、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な取組により、主体的・対話的な学びを実現する授業改善を行った。

デジタルとアナログの双方の長所を踏まえて、第3学年の昆虫や植物の観察において、写真を撮った後、スケッチする活動を行うことにより、細部まで見ようとする児童の姿を見ることができた。

小学校4年間を見通した理科授業の推進

専科教員が第3～6学年の授業を一括して担当し、教科書・ノートやタブレット端末の使い方等の学習規律を統一することにより、進級後も児童が学習過程を理解し、学びの連続性を保障することができた。また、理科室に各学年の学習内容を掲示することにより、今後の学習のつながりを実感することができた。

その他、専科教員が中学校の理科の授業見学や中学校理科担当教員との定期的な交流を実施し、中学校理科における学習の指導方法を把握することにより、第6学年理科の授業と中学校理科の授業との円滑な接続に努め、児童の主体的な学びの実現に向けた専門性の高い授業を行うことができた。

学級担任の効率的な業務推進

学級担任が週3コマの理科の時間に教材研究や分掌業務を行い、時間外勤務の縮減を図るとともに、学級の子どもと向き合える時間が充実するなど、カリキュラム・マネジメント推進にもつながっている。また、理科専科教員が低学年の生活科の植物栽培の補助を行うことにより、低学年担任の効率的な業務推進につなげることができた。

#### (3) 取組後の点検・評価、工夫改善

専科教員が中学校理科担当教員との交流を基に授業改善を図ったことにより、対話を通して、他者の考えを知り、自分の考えを見直したり、1人1台端末を活用した共同編集作業を通し、他者の考えを尊重しながらまとめる活動に取り組んだりするなど、児童の深い学びの実現を図ることができた。また、中学校、芽室町教育DX推進員と連携し、ICTを活用した授業による児童の学びの変容について検証を行い、個別最適な学びや協働的な学びの推進に向けた学校全体でのICTを効果的に活用した授業改善の在り方を共有した。

専科教員を配置することにより、学級担任の業務軽減を推進することができた。今後更に、学級担任が教材研究を一層充実させ、学校として育成を目指す資質・能力を基盤とした授業改善を推進する必要がある。

#### (4) 改善後の取組

中学校理科担当教員と小学校卒業後の生徒の学習状況を共有し、論理的に考えを発表する力・実験器具の正しい扱い方の理解等、小学校段階で育むべき内容が明らかになったことから、授業改善の方向性について研修部と連携し、ICTを効果的に活用した資質・能力の育成について、学校全体で共通理解を図った。

### 3 実践のポイント

専門性を生かした授業づくりとICTを活用した取組により、小学校4年間の系統性や中学校とのつながりを意識した授業を推進し、理科の授業を中心に学校全体でのICTを効果的に活用した授業改善につなげたこと



【共有機能を活用している様子】